



Cisco Secure Firewall 1210/20 Threat Defense スタートアップガイド：クラウド提供型 Firewall Management Center

最終更新：2025 年 3 月 7 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>



第 1 章

はじめる前に

分散拠点にファイアウォールをインストールし、Security Cloud Control（旧称、Cisco Defense Orchestrator）を使用して外部インターフェイスで管理します。



（注） 高可用性を実現するために、手動登録で外部インターフェイスを使用できますが、ゼロタッチプロビジョニングを使用するには、管理インターフェイスを使用する必要があります。このガイドでは、特に外部管理について説明しますが、管理インターフェイスを使用した管理については、[Cisco Security Cloud Control のクラウド提供型 Firewall Management Center を使用した Firewall Threat Defense の管理](#) を参照してください。

- [ファイアウォールの電源の投入（1 ページ）](#)
- [インストールされているアプリケーション（Threat Defense または ASA）の確認（3 ページ）](#)
- [Threat Defense CLI へのアクセス（4 ページ）](#)
- [バージョンの確認と再イメージ化（5 ページ）](#)
- [ライセンスを取得する（7 ページ）](#)
- [（必要な場合）ファイアウォールの電源の切断（8 ページ）](#)

ファイアウォールの電源の投入

システムの電源は、ファイアウォールの背面にある電源ボタンによって制御されます。電源ボタンは、ソフト通知を提供します。これにより、システムのグレースフルシャットダウンがサポートされ、システムソフトウェアおよびデータの破損のリスクが軽減されます。



（注） ファイアウォールを初めて起動するときは、Threat Defense の初期化に約 15 ～ 30 分かかります。

始める前に

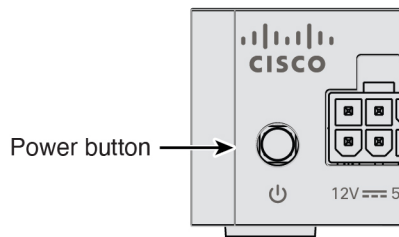
ファイアウォールに対して信頼性の高い電力を供給することが重要です（無停電電源装置（UPS）を使用するなど）。最初のシャットダウンを行わないで電力が失われると、重大なファイルシステムの損傷を引き起こす可能性があります。バックグラウンドでは常に多数のプロセスが実行されていて、電力が失われると、システムをグレースフルシャットダウンできません。

手順

ステップ 1 電源コードをファイアウォールに接続し、電源コンセントに接続します。

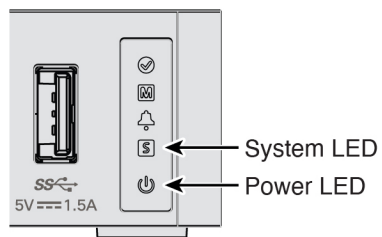
ステップ 2 シャーシの背面で、電源コードに隣接する電源ボタンを使用して電源をオンにします。

図 1: 電源ボタン



ステップ 3 ファイアウォールの背面にある電源LEDを確認します。緑色に点灯している場合は、ファイアウォールの電源が入っています。

図 2: システムおよび電源 LED



ステップ 4 ファイアウォールの背面にあるシステムLEDを確認します。緑色に点灯している場合は、電源投入診断に合格しています。

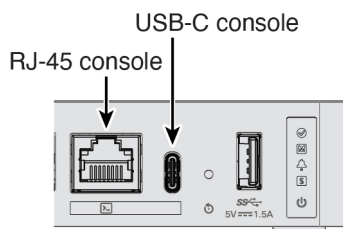
インストールされているアプリケーション（Threat Defense または ASA）の確認

Threat Defense と ASA の両方のアプリケーションが、ハードウェアでサポートされています。コンソールポートに接続し、出荷時にインストールされているアプリケーションを確認します。

手順

ステップ 1 いずれかのポートタイプを使用してコンソールポートに接続します。

図 3: コンソールポート



ステップ 2 CLI プロンプトを参照して、ファイアウォールで Threat Defense または ASA が実行されているかどうかを確認します。

Threat Defense

Firepower ログイン (FXOS) プロンプトが表示されます。ログインして新しいパスワードを設定せずに、切断することができます。ログインを完了する必要がある場合は、[Threat Defense CLI へのアクセス \(4 ページ\)](#) を参照してください。

```
firepower login:
```

ASA

ASA プロンプトが表示されます。

```
ciscoasa>
```

ステップ 3 間違ったアプリケーションが実行されている場合は、[Cisco Secure Firewall ASA および Secure Firewall Threat Defense 再イメージ化ガイド](#)を参照してください。

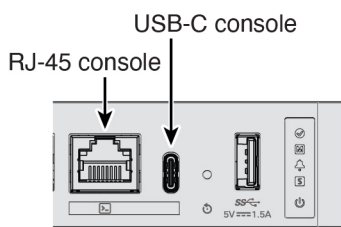
Threat Defense CLI へのアクセス

設定またはトラブルシューティングのために CLI にアクセスする必要がある場合があります。

手順

ステップ 1 いずれかのポートタイプを使用してコンソールポートに接続します。

図 4: コンソール ポート



ステップ 2 FXOS に接続します。ユーザー名 **admin** とパスワード（デフォルトは **Admin123**）を使用して CLI にログインします。初めてログインしたとき、パスワードを変更するよう求められます。

```
firepower login: admin
Password: Admin123
Successful login attempts for user 'admin' : 1

[...]

Hello admin. You must change your password.
Enter new password: *****
Confirm new password: *****
Your password was updated successfully.

[...]

firepower#
```

ステップ 3 Threat Defense CLI に変更します。

（注）

初期セットアップに Device Manager を使用する場合またはゼロタッチプロビジョニングを使用する場合は、Threat Defense CLI にアクセスしないでください（アクセスすると、CLI セットアップが開始されます）。

connect ftd

Threat Defense CLI に初めて接続すると、初期セットアップを完了するように求められます。

例：

```
firepower# connect ftd
>
```

Threat Defense CLIを終了するには、**exit** または **logout** コマンドを入力します。このコマンドにより、FXOS プロンプトに戻ります。

例：

```
> exit
firepower#
```

バージョンの確認と再イメージ化

ファイアウォールを設定する前に対象バージョンをインストールすることをお勧めします。別の方法として、稼働後にアップグレードを実行することもできますが、設定を保持するアップグレードでは、この手順を使用するよりも時間がかかる場合があります。

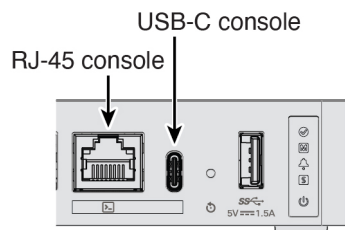
実行するバージョン

ソフトウェア ダウンロード ページのリリース番号の横にある、金色の星が付いている Gold Star リリースを実行することをお勧めします。 <https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/security/firewalls/bulletin-c25-743178.html> で説明されているリリース戦略を参照することもできます。

手順

ステップ 1 いずれかのポートタイプを使用してコンソールポートに接続します。

図 5: コンソールポート



ステップ 2 FXOS CLI で、実行中のバージョンを表示します。

```
scope ssa
```

```
show app-instance
```

例：

```
Firepower# scope ssa
```

```
Firepower /ssa # show app-instance
```

Application Name	Slot	ID	Admin State	Operational State	Running Version	Startup Version	Cluster	Oper State
ftd	1		Enabled	Online	7.6.0.65	7.6.0.65	Not Applicable	

ステップ3 新しいバージョンをインストールする場合は、次の手順を実行します。

- a) デフォルトでは、管理インターフェイスは DHCP を使用します。管理インターフェイスに静的 IP アドレスを設定する必要がある場合は、次のコマンドを入力します。

scope fabric-interconnect a

set out-of-band static ip ip netmask netmask gw gateway

commit-buffer

(注)

次のエラーが発生する場合は、変更をコミットする前に DHCP を無効にする必要があります。DHCP を無効にするには、次の手順に従います。

```
firepower /fabric-interconnect* # commit-buffer
Error: Update failed: [Management ipv4 address (IP <ip> / net mask <netmask> ) is not
in the same network of current DHCP server IP range <ip - ip>].
Either disable DHCP server first or config with a different ipv4 address.]
firepower /fabric-interconnect* # exit
firepower* # scope system
firepower /system* # scope services
firepower /system/services* # disable dhcp-server
firepower /system/services* # commit-buffer
```

- b) [FXOS のトラブルシューティング ガイド](#)に記載されている[再イメージ化の手順](#)を実行します。

管理インターフェイスからアクセスできるサーバーから新しいイメージをダウンロードする必要があります。

ファイアウォールが再起動したら、FXOS CLI に再度接続します。

- c) FXOS CLI で、管理者パスワードを再度設定するように求められます。

ロータッチプロビジョニングの場合は、デバイスをオンボーディングする際、すでにパスワードが設定されているため、[パスワードのリセット (Password Reset)] エリアで必ず [いいえ (No)] を選択してください。

- d) ファイアウォールをシャットダウンします。 [\(必要な場合\) ファイアウォールの電源の切断 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

ライセンスを取得する

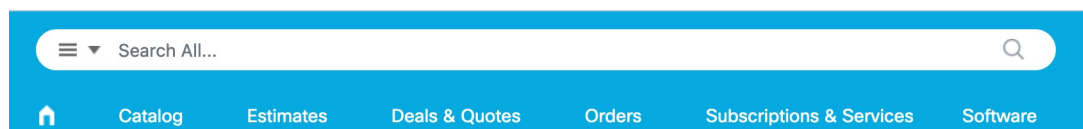
ライセンスは、シスコまたは販売代理店からデバイスを購入した際に、スマートソフトウェアライセンシングアカウントにリンクされています。[Smart Software Manager](#) にアカウントがない場合は、リンクをクリックして[新しいアカウントを設定します](#)。

まだの場合は、[Smart Software Manager](#) に [Security Cloud Control](#) を登録します。登録を行うには、[Smart Software Manager](#) で登録トークンを生成する必要があります。詳しい手順については、[Security Cloud Control のマニュアル](#)を参照してください。

Threat Defense には次のライセンスがあります。

- Essentials : 必須
 - IPS
 - マルウェア防御
 - URL フィルタリング
 - Cisco Secure Client
1. 自身でライセンスを追加する必要がある場合は、[Cisco Commerce Workspace](#) で [すべて検索 (Search All)] フィールドを使用します。

図 6: ライセンス検索



2. 次のライセンス PID を検索します。



(注) PID が見つからない場合は、注文に手動で PID を追加できます。

- Essentials :
 - 自動的に含める
- IPS、マルウェア防御、および URL の組み合わせ :
 - L-CSF1210CET-TMC=
 - L-CSF1210CPT-TMC=
 - L-CSF1220CXT-TMC=

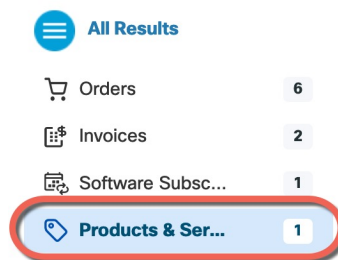
上記の PID のいずれかを注文に追加すると、次のいずれかの PID に対応する期間ベースのサブスクリプションを選択できます。

- L-CSF1210CE-TMC-1Y
- L-CSF1210CE-TMC-3Y
- L-CSF1210CE-TMC-5Y
- L-CSF1210CP-TMC-1Y
- L-CSF1210CP-TMC-3Y
- L-CSF1210CP-TMC-5Y
- L-CSF1220CX-TMC-1Y
- L-CSF1220CX-TMC-3Y
- L-CSF1220CX-TMC-5Y

- Cisco Secure Client : 『[Cisco Secure Client Ordering Guide](#)』を参照してください。

3. 結果から、[製品とサービス (Products and Services)] を選択します。

図 7: 結果



(必要な場合) ファイアウォールの電源の切断

システムを適切にシャットダウンすることが重要です。単純に電源プラグを抜いたり、電源スイッチを押したりすると、重大なファイルシステムの損傷を引き起こすことがあります。バックグラウンドでは常に多数のプロセスが実行されており、電源プラグを抜いたり、電源を切断したりすると、ファイアウォールシステムをグレースフルシャットダウンできません。

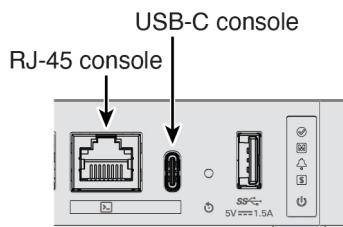
CLI におけるファイアウォールの電源の切断

FXOS CLI を使用すると、システムを安全にシャットダウンしてファイアウォールの電源を切断できます。

手順

ステップ 1 いずれかのポートタイプを使用してコンソールポートに接続します。

図 8: コンソールポート



ステップ 2 FXOS CLI でローカル管理モードに接続します。

```
firepower # connect local-mgmt
```

ステップ 3 システムをシャットダウンします。

```
firepower(local-mgmt) # shutdown
```

例 :

```
firepower(local-mgmt)# shutdown
This command will shutdown the system. Continue?
Please enter 'YES' or 'NO': yes
INIT: Stopping Cisco Threat Defense.....ok
```

ステップ 4 ファイアウォールのシャットダウン時にシステムプロンプトをモニターします。シャットダウンが完了すると、次のプロンプトが表示されます。

```
System is stopped.
It is safe to power off now.
Do you want to reboot instead? [y/N]
```

ステップ 5 必要に応じて電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いてシャーシから物理的に電源を取り外すことができます。

Management Center を使用したファイアウォールの電源の切断

Management Center を使用してシステムを適切にシャットダウンします。

手順

ステップ 1 ファイアウォールをシャットダウンします。

a) **[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)]** を選択します。

- b) 再起動するデバイスの横にある [編集 (Edit)] () をクリックします。
- c) [デバイス (Device)] タブをクリックします。
- d) [システム (System)] セクションで [デバイスのシャットダウン (Shut Down Device)] () をクリックします。
- e) プロンプトが表示されたら、デバイスのシャットダウンを確認します。

ステップ 2 コンソールからファイアウォールに接続している場合は、ファイアウォールがシャットダウンするときにシステムプロンプトをモニターします。シャットダウンが完了すると、次のプロンプトが表示されます。

```
System is stopped.  
It is safe to power off now.  
  
Do you want to reboot instead? [y/N]
```

コンソールから接続していない場合は、約3分間待ってシステムがシャットダウンしたことを確認します。

ステップ 3 必要に応じて電源スイッチをオフにし、電源プラグを抜いてシャーシから物理的に電源を取り外すことができます。



第 2 章

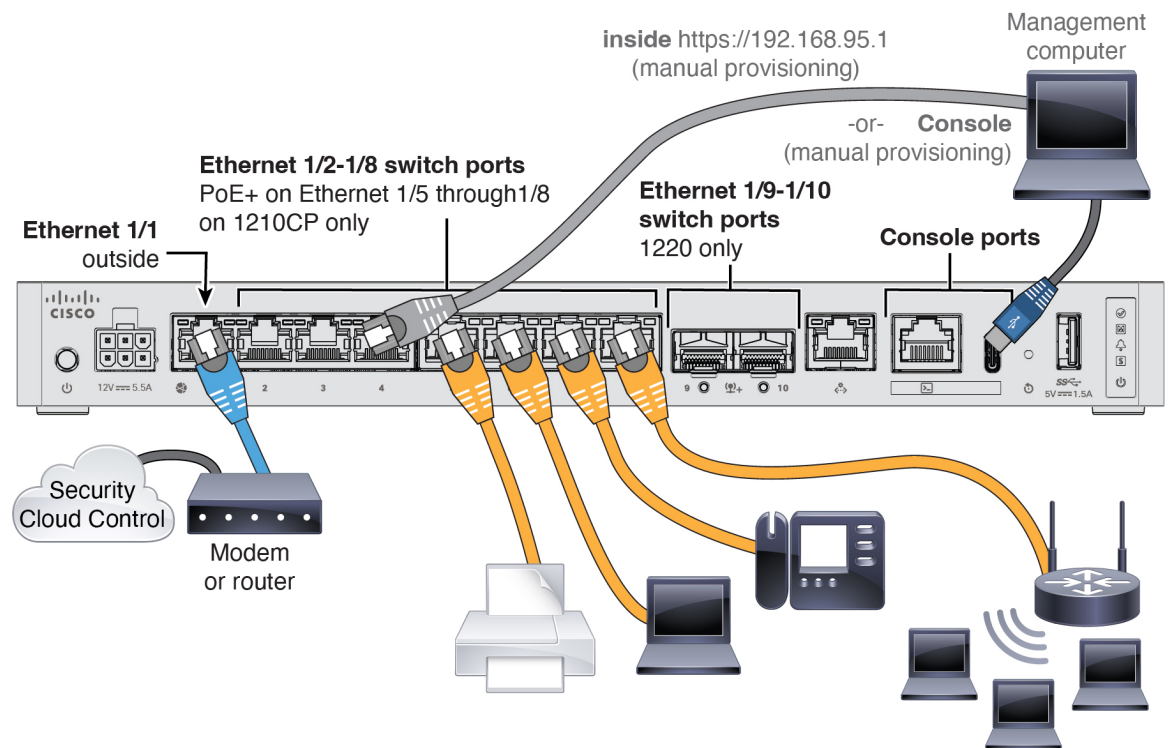
ファイアウォールのケーブル接続とオンボード

ファイアウォールをケーブル接続し、Security Cloud Control にオンボードします。

- [ファイアウォールのケーブル接続](#) (11 ページ)
- [ファイアウォールの Security Cloud Control へのオンボード](#) (12 ページ)
- [初期設定の実行 \(手動プロビジョニング\)](#) (18 ページ)

ファイアウォールのケーブル接続

- Cisco Secure Firewall 1220 の場合は、SFP をイーサネット 1/9 および 1/10 ポートに取り付けます。このポートは、SFP/SFP+ モジュールを必要とする 1/10 Gb SFP+ ポートです。
- 詳細については、[ハードウェア設置ガイド](#)を参照してください。
- ゼロタッチプロビジョニングで高可用性を使用する場合を除き、管理インターフェイスをケーブル接続しないでください。この場合は、[Cisco Security Cloud Control のクラウド提供型 Firewall Management Center](#)を使用した [Firewall Threat Defense の管理](#)を参照してください。このガイドでは、ゼロタッチプロビジョニングの外部インターフェイスについてのみ説明します。



ファイアウォールの Security Cloud Control へのオンボード

ゼロタッチプロビジョニングまたは手動プロビジョニングを使用してファイアウォールをオンボードします。

ゼロタッチプロビジョニングによるファイアウォールをオンボード

ゼロタッチプロビジョニングとデバイスのシリアル番号を使用して Threat Defense を導入準備します。

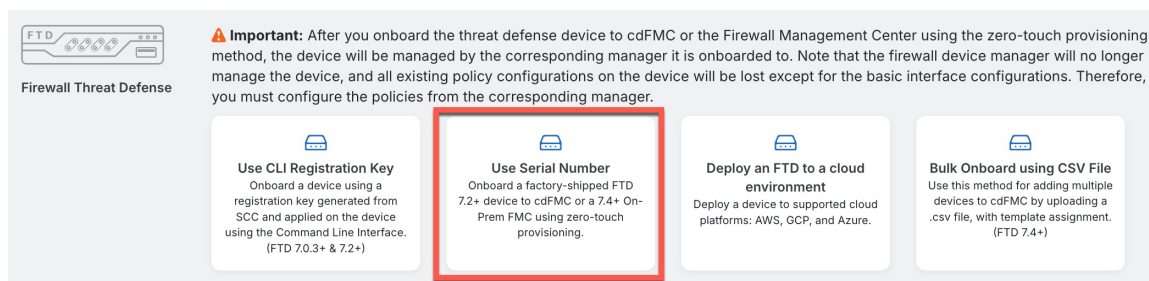
手順

- ステップ 1** Security Cloud Control のナビゲーションウィンドウで **セキュリティデバイス** をクリックし、青色のプラスボタン () をクリックしてデバイスを [オンボード (Onboard)] します。
- ステップ 2** [FTD] タイルを選択します。
- ステップ 3** [管理モード] で、[FTD] が選択されていることを確認します。

管理モードとして [FTD] を選択した後はいつでも、[スマートライセンスの管理] をクリックして、デバイスで使用可能な既存のスマートライセンスに登録または変更できます。使用可能なライセンスについては、[ライセンスを取得する（7 ページ）](#) を参照してください。

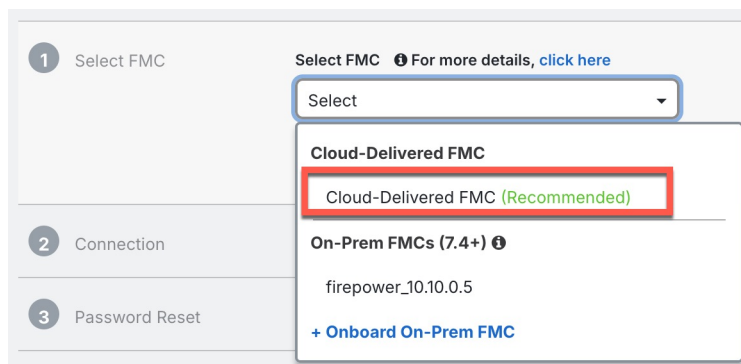
ステップ 4 オンボーディング方法として [シリアル番号を使用（Use Serial Number）] を選択します。

図 9: シリアル番号を使用



ステップ 5 [FMCの選択（Select FMC）] で、リストから [クラウド提供型FMC（Cloud-Delivered FMC）]、[Firewall Management Center] の順に選択し、[次へ（Next）] をクリックします。 >

図 10: FMCの選択



ステップ 6 [接続（Connection）] エリアで、[デバイスのシリアル番号（Device Serial Number）] と [デバイス名（Device Serial Number）] を入力し、[次へ（Next）] をクリックします。

図 11: 接続



ステップ 7 [パスワードのリセット（Password Reset）] で、[はい...（Yes...）] をクリックします。デバイスの新しいパスワードを入力し、この新しいパスワードを確認して、[次へ（Next）] をクリックします。

ゼロタッチプロビジョニング の場合、デバイスは新規であるか、再イメージ化されている必要があります。

(注)

ゼロタッチプロビジョニングによるファイアウォールをオンボード

デバイスにログインしてパスワードをリセットし、ゼロタッチプロビジョニングを無効にするように設定を変更しなかった場合は、[いいえ... (No...)] オプションを選択する必要があります。ゼロタッチプロビジョニングプロビジョニングを無効にする設定は多数あるため、再イメージ化などの必要がある場合を除き、デバイスにログインすることは推奨されません。

図 12: パスワードのリセット

3 Password Reset

1 Please review all the prerequisites for onboarding with a serial number. [Learn more](#)

2 Is this a new device that has never been logged into or configured for a manager?

☒ Yes, this new device has never been logged into or configured for a manager

Enter a new password for devices that have never been configured for a manager.

Important: If you select this option and the device's default password has already been changed, onboarding fails.

New Password

Confirm Password

☐ No, this device has been logged into and configured for a manager

Use this option if you already changed the password in the device CLI.

Important: If you select this option and the device's default password has not been changed, onboarding fails.

Next

Password must:

- Be 8-128 characters
- Have at least one lower and one upper case letter
- Have at least one digit
- Have at least one special character.
- Not contain consecutive repeated letters

ステップ 8 [ポリシー割り当て (Policy Assignment)] については、ドロップダウンメニューを使用して、デバイスのアクセス コントロール ポリシーを選択します。ポリシーが設定されていない場合は、[デフォルトのアクセスコントロールポリシー (Default Access Control Policy)] を選択します。

図 13: ポリシー割り当て

4 Policy Assignment

Access Control Policy

Default Access Control Policy ▼

Next

ステップ 9 [サブスクリプションライセンス (Subscription License)] については、有効にする各機能ライセンスをチェックします。[Next] をクリックします。

図 14: サブスクリプションライセンス

License Type	Includes
☒ Essentials	Base Firewall Capabilities
☒ Carrier (7.3+ FTDs only)	GTP/GPRS, Diameter, SCTP, M3UA
☒ IPS	Intrusion Policy
☒ Malware Defense	File Policy
☒ URL	URL Reputation
☐ RA VPN	RA VPN

Next

Enable subscription licenses. CDO will attempt to enable the selected licenses when the device is connected to CDO and registered with the supplied Smart License. [Learn more about Cisco Smart Accounts.](#)

ステップ 10 (任意) [セキュリティデバイス (Security Devices)] ページの並べ替えとフィルタ処理に役立つラベルをデバイスに追加します。ラベルを入力し、青いプラスボタン (+) を選択します。ラベルは、Security Cloud Control への導入準備後にデバイスに適用されます。

図 15: 終了

6 Done

Your device is now onboarding.

This may take a long time to finish. You can check the status of the device on the Devices and Services page.

Add Labels ⓘ

Add label groups and labels +

Go to Inventory

次のタスク

[セキュリティデバイス (Security Devices)] ページから、導入準備したばかりのデバイスを選択し、右側にある [管理 (Management)] ペインに一覧表示されているオプションのいずれかを選択します。

手動プロビジョニングによるファイアウォールをオンボード

CLI 登録キーを使用してファイアウォールをオンボードします。

手順

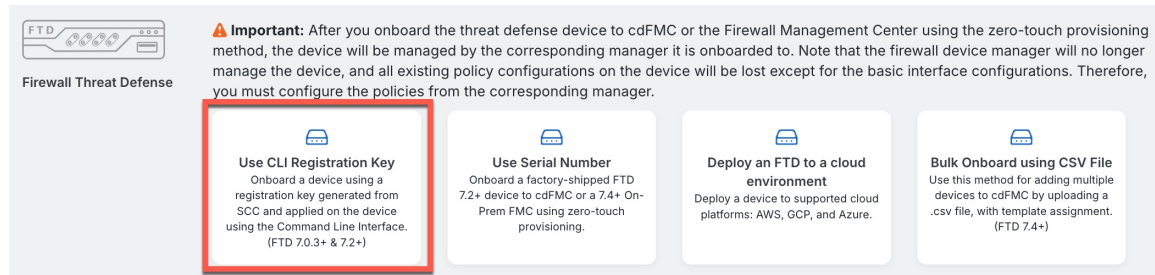
ステップ 1 Security Cloud Control のナビゲーションウィンドウで **セキュリティデバイス** をクリックし、青色のプラスボタン (+) をクリックしてデバイスを [オンボード (Onboard)] します。

ステップ 2 [FTD] タイルをクリックします。

ステップ 3 [管理モード] で、[FTD] が選択されていることを確認します。

ステップ 4 オンボーディング方法として [CLI登録キーを使用 (Use CLI Registration Key)] を選択します。

図 16: CLI 登録キーを使用



ステップ 5 [デバイス名 (Device Name)] を入力して、[次へ (Next)] をクリックします。

図 17: デバイス名

ステップ 6 [ポリシー割り当て (Policy Assignment)] については、ドロップダウンメニューを使用して、デバイスのアクセスコントロールポリシーを選択します。ポリシーが設定されていない場合は、[デフォルトのアクセスコントロールポリシー (Default Access Control Policy)] を選択します。

図 18: アクセスコントロール ポリシー

ステップ 7 [サブスクリプションライセンス (Subscription License)] については、[物理 FTD デバイス (Physical FTD Device)] ラジオ ボタンをクリックし、有効にする各機能ライセンスをチェックします。[Next] をクリックします。

図 19: サブスクリプションライセンス

3 Subscription License

Please indicate if this FTD is physical or virtual:

☒ Physical FTD Device
☐ Virtual FTD Device

License Type	Includes
☒ Essentials	Base Firewall Capabilities
☒ Carrier (7.3+ FTDs only)	GTP/GPRS, Diameter, SCTP, M3UA
☒ IPS	Intrusion Policy
☒ Malware Defense	File Policy
☒ URL	URL Reputation
☒ RA VPN Premier ▼	RA VPN

Next

ステップ 8 [CLI登録キー（CLI Registration Key）]については、Security Cloud Control は、登録キーとその他のパラメータを使用してコマンドを生成します。このコマンドをコピーして、Threat Defense の初期設定で使用する必要があります。

図 20: CLI 登録キー

4 CLI Registration Key

- 1 Ensure the device's initial configuration is complete before trying to apply the registration key. [Learn more](#)
- 2 Copy the CLI Key below and paste it into the CLI of the FTD

```
configure manager add cisco-security-docs.app.us.cdo.cisco.com
BanyI2oaT0ew1JTpC0P2w3xEBnVVkfZv x7R7dwcM43JCMzwGY3ZzCfoFmZhW97my cisco-security-
docs.app.us.cdo.cisco.com
```

Next

configure manager add Security Cloud Control_hostname registration_key nat_id display_name

CLI での、または Device Manager を使用した初期設定の完了

- **初期設定：CLI（25 ページ）**：スタートアップスクリプトを完了した後、Threat Defense CLI でこのコマンドをコピーします。
- **初期設定：デバイスマネージャ（18 ページ）**：コマンドの *scc_hostname*、*registration_key*、および *nat_id* の部分を、[Management Center/Security Cloud Controlのホスト名/IPアドレス（Management Center/Security Cloud Control Hostname/IP Address）]、[Management Center/Security Cloud Controlの登録キー（Management Center/Security Cloud Control Registration Key）]、および [NAT ID] フィールドにコピーします。

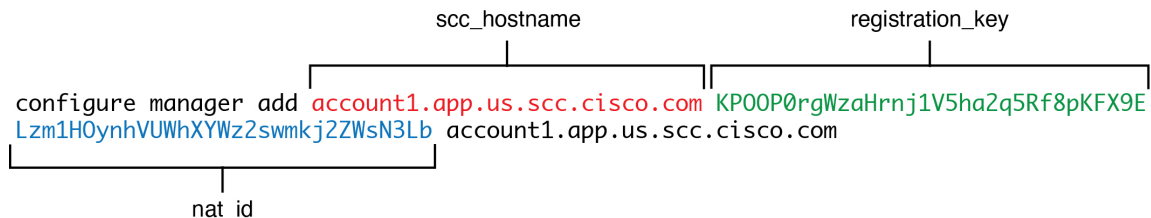
例：

CLI セットアップのサンプルコマンド:

```
configure manager add account1.app.us.scc.cisco.com KP00P0rgWzaHrnj1V5ha2q5Rf8pKFX9E
Lzm1H0ynhVUWhXYWz2swmkj2ZWsN3Lb account1.app.us.scc.cisco.com
```

GUI セットアップのサンプル コマンド コンポーネント :

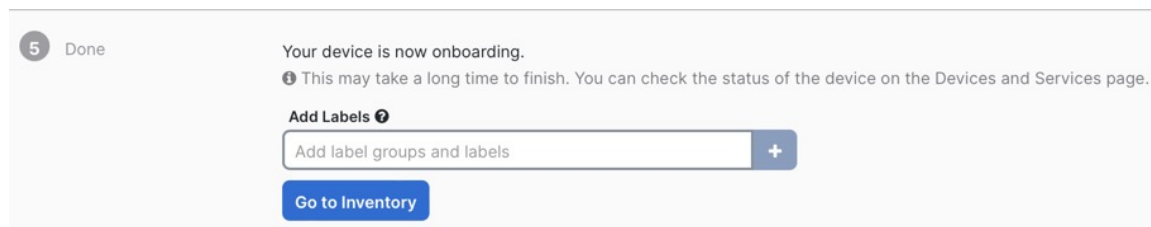
図 21 : `configure manager add` コマンドコンポーネント



ステップ 9 オンボーディングウィザードで [次へ (Next)] をクリックして、デバイスの登録を開始します。

ステップ 10 (任意) [セキュリティデバイス (Security Devices)] ページの並べ替えとフィルタ処理に役立つラベルをデバイスに追加します。ラベルを入力し、青いプラスボタン (+) を選択します。ラベルは、Security Cloud Control への導入準備後にデバイスに適用されます。

図 22 : 終了



初期設定の実行（手動プロビジョニング）

手動でプロビジョニングを行う場合は、Secure Firewall Device Manager または CLI を使用して、ファイアウォールの初期設定を実行します。

初期設定：デバイスマネージャ

この方法を使用すると、ファイアウォールを登録した後、管理インターフェイスに加えて次のインターフェイスが事前設定されます。

- イーサネット 1/1 : 「外部」、DHCP からの IP アドレス、IPv6 自動設定
- VLAN1 : 「内部」、192.168.95.1/24
- デフォルトルート : 外部インターフェイスで DHCP を介して取得

- 追加インターフェイス：Device Manager からのインターフェイス設定はすべて保持されます。

他の設定（内部の DHCP サーバー、アクセス コントロール ポリシー、セキュリティゾーンなど）は保持されません。

手順

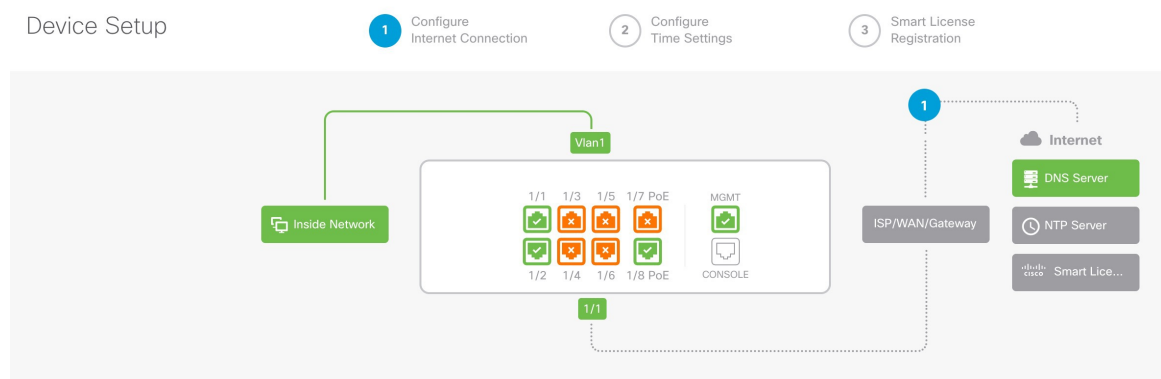
ステップ 1 コンピュータを内部インターフェイス（Ethernet 1/2 ～ 1/8 または Cisco Secure Firewall 1220 の場合は 1/2 ～ 1/10）に接続します。

ステップ 2 Device Manager にログインします。

- <https://192.168.95.1>に進みます。
- ユーザー名 **admin** とデフォルトパスワード **Admin123** を使用してログインします。
- 一般規約を読んで同意し、管理者パスワードを変更するように求められます。

ステップ 3 セットアップウィザードを使用します。

図 23:[デバイスの設定 (Device Setup)]



（注）

正確なポート設定は、モデルによって異なります。

- 外部インターフェイスと管理インターフェイスを設定します。

図 24: インターネットへのファイアウォールの接続

Connect firewall to Internet

The initial access control policy will enforce the following actions.
You can edit the policy after setup.

Rule 1 Trust Outbound Traffic This rule allows traffic to go from inside to outside, which is needed for the Smart License configuration.	Default Action Block all other traffic The default action blocks all other traffic.
---	---

Outside Interface Address

Connect Ethernet1/1 (Outside) to your ISP/WAN device, for example, your cable modem or router. Then, configure the addresses for the outside interface.

Configure IPv4

Using DHCP ▼

Configure IPv6

Using DHCP ▼

NEXT
Don't have internet connection?
[Skip device setup](#) ⓘ

1. [外部インターフェイスアドレス (Outside Interface Address)] : 高可用性の実装を予定している場合は、静的 IP アドレスを使用します。セットアップウィザードを使用して PPPoE を設定することはできません。ウィザードの完了後に PPPoE を設定できます。
2. [管理インターフェイス (Management Interface)] : 外部インターフェイスでマネージャアクセスを使用している場合でも、管理インターフェイスの設定が使用されます。たとえば、外部インターフェイスを介してバックプレーン経由で回送される管理トラフィックは、外部インターフェイスの DNS サーバーではなく、これらの管理インターフェイスの DNS サーバーを使用して FQDN を解決します。

[DNSサーバ (DNS Servers)] : システムの管理アドレス用の DNS サーバ。デフォルトは OpenDNS パブリック DNS サーバです。これらは、両方とも外部インターフェイスからアクセスされるため、後で設定する外部インターフェイスの DNS サーバーと一致する可能性があります。

ファイアウォールのホスト名

- b) [時刻設定 (NTP) (Time Setting (NTP))] を設定し、[次へ (Next)] をクリックします。

図 25:時刻設定 (NTP)

Time Setting (NTP)

System Time: 11:56:20AM October 03 2024 -06:00

Time Zone for Scheduling Tasks

(UTC+00:00) UTC

NTP Time Server

Default NTP Servers

Server Name

0.sourcefire.pool.ntp.org

1.sourcefire.pool.ntp.org

2.sourcefire.pool.ntp.org

NEXT

- c) [登録せずに 90 日間の評価期間を開始 (Start 90 day evaluation period without registration)] を選択します。

Register with Cisco Smart Software Manager

Register with Cisco Smart Software Manager to use the full functionality of this device and to apply subscription licenses.

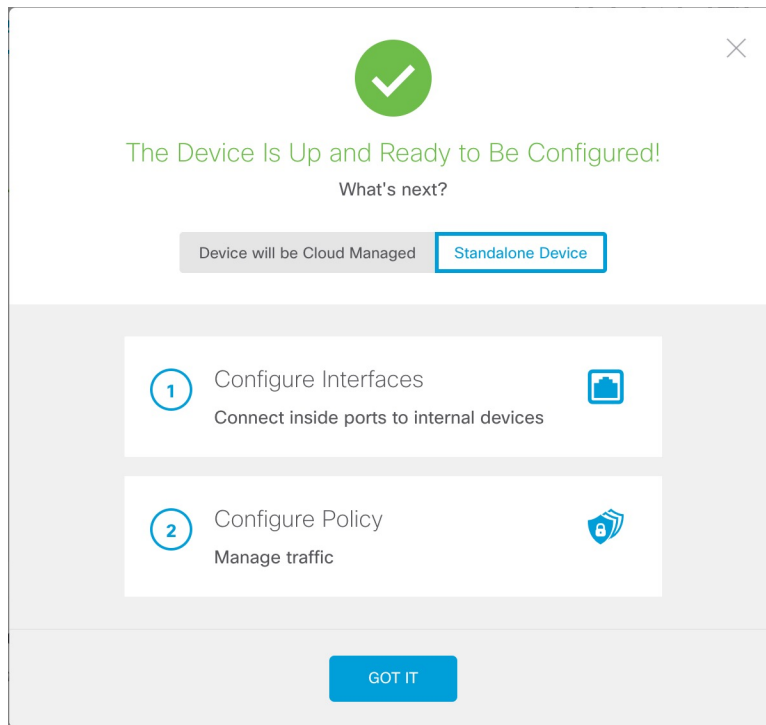
[What is smart license? ⓘ](#)

- ☐ **Continue with evaluation period: Start 90-day evaluation period without registration**
Recommended if device will be cloud managed. [Learn More ⓘ](#)
Please make sure you register with Cisco before the evaluation period ends.
Otherwise you will not be able to make any changes to the device configuration.

Threat Defense を Smart Software Manager に登録「しない」でください。すべてのライセンスは Security Cloud Control で実行されます。

- d) [終了 (Finish)] をクリックします。

図 26: 次のステップ



e) [スタンドアロンデバイス (Standalone Device)] を選択し、[了解 (Got It)] を選択します。

ステップ 4 追加のインターフェイスを設定する場合は、[デバイス (Device)] を選択し、[インターフェイス (Interface)] のサマリーにあるリンクをクリックします。

ステップ 5 [デバイス (Device)] > [システム設定 (System Settings)] > [集中管理 (Central Management)] の順に選択し、[続行 (Proceed)] をクリックして Security Cloud Control に登録します。

[Management Center/CDOの詳細 (Management Center/Security Cloud Control Details)] を設定します。

図 27 : Management Center/Security Cloud Control の詳細

Configure Connection to Management Center or CDO

Provide details to register to the management center/CDO.

Management Center/CDO Details

Do you know the Management Center/CDO hostname or IP address?

☒ Yes ☐ No

Threat Defense
10.89.5.16
fe80::6a87:c6ff:fea6:4c00/64

→

Management Center/CDO
10.89.5.35

Management Center/CDO Hostname or IP Address

10.89.5.35

Management Center/CDO Registration Key

●●●● 

NAT ID

Required when the management center/CDO hostname or IP address is not provided. We recommend always setting the NAT ID even when you specify the management center/CDO hostname or IP address.

11203

Connectivity Configuration

Threat Defense Hostname

1120-3

DNS Server Group

CustomDNSServerGroup ▼

Management Center/CDO Access Interface

☐ Data Interface

Please select an interface ▼

☒ Management Interface [View details](#)

CANCEL CONNECT

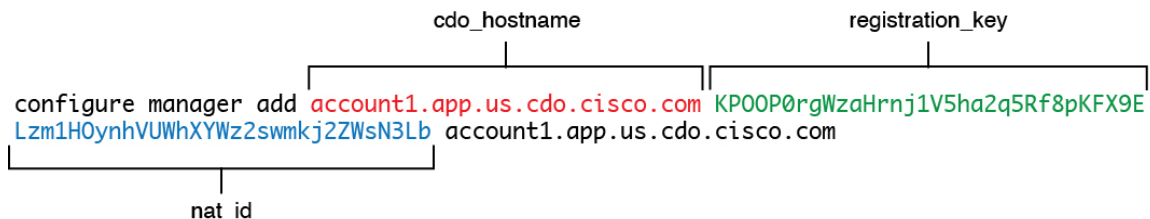
- a) [Management Center/CDOのホスト名またはIPアドレスを知っていますか（Do you know the Management Center/Security Cloud Control hostname or IP address）] で、[はい（Yes）] をクリックします。

Security Cloud Control は **configure manager add** コマンドを生成します。コマンドの生成については、[手動プロビジョニングによるファイアウォールをオンボード（15 ページ）](#) を参照してください。

configure manager add *_hostname registration_key nat_id display_name*

例 :

図 28 : **configure manager add** コマンドコンポーネント



- b) コマンドの *cdo_hostname*、*registration_key*、*nat_id* の部分を [Management Center/CDOのホスト名/IPアドレス (Management Center/CDO Hostname/IP Address)]、[Management Center/CDOの登録キー (Management Center/CDO Registration Key)]、[NAT ID (NAT ID)] フィールドにコピーします。

ステップ 6 [接続の設定 (Connectivity Configuration)] を設定します。

- a) [Threat Defenseのホスト名 (Threat Defense Hostname)] を指定します。

この FQDN は外部インターフェイスに使用されます。

- b) [DNSサーバーグループ (DNS Server Group)] を指定します。

既存のグループを選択するか、新しいグループを作成します。デフォルトの DNS グループは **CiscoUmbrellaDNSServerGroup** と呼ばれ、OpenDNS サーバーが含まれます。

登録後に外部 DNS サーバー設定を保持するには、Management Center で DNS プラットフォーム設定を再設定する必要があります。

- c) [Management Center/CDOアクセスインターフェイス (Management Center/CDO Access Interface)] については、[データインターフェイス (Data Interface)] をクリックし、[外部 (outside)] を選択します。

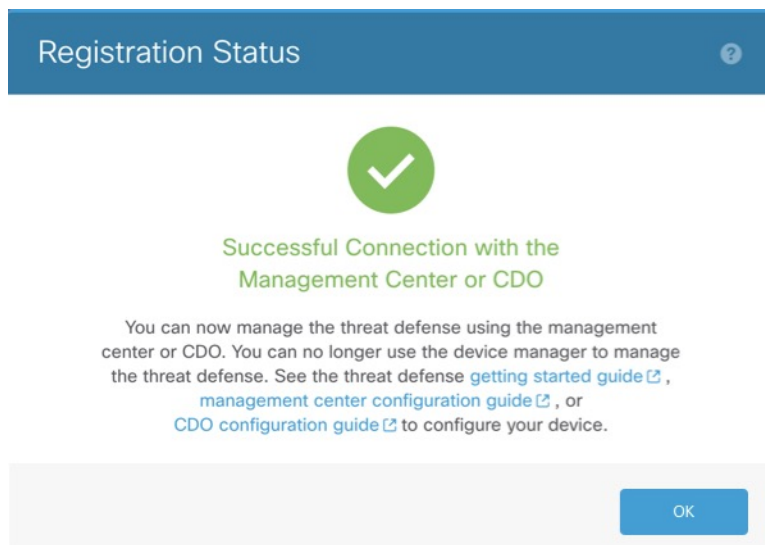
ステップ 7 (任意) [ダイナミック DNS (DDNS) 方式の追加 (Add a Dynamic DNS (DDNS) method)] をクリックします。

DDNS は、Threat Defense の IP アドレスが変更された場合に Management Center が FQDN で Threat Defense に到達できるようにします。

ステップ 8 [接続 (Connect)] をクリックします。

[登録ステータス (Registration Status)] ダイアログボックスに、Security Cloud Control 登録の現在のステータスが表示されます。

図 29: 正常接続



ステップ 9 ステータス画面で [Management Center/CDO登録設定の保存 (Saving Management Center/Security Cloud Control Registration Settings)] 手順を実行したら、Security Cloud Control に移動し、ファイアウォールを追加します。 [手動プロビジョニングによるファイアウォールをオンボード \(15 ページ\)](#) を参照してください。

初期設定 : CLI

CLI セットアップスクリプトを使用して、専用の管理 IP アドレス、ゲートウェイ、およびその他の基本ネットワーク設定を行います。

手順

ステップ 1 コンソールポートに接続して Threat Defense CLI にアクセスします。 [Threat Defense CLI へのアクセス \(4 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 2 管理インターフェイスの設定用の CLI セットアップスクリプトを完了します。

(注)

設定をクリア (たとえば、イメージを再作成することにより) しないかぎり、CLI セットアップスクリプトを繰り返すことはできません。ただし、これらの設定すべては、後から CLI で **configure network** コマンドを使用して変更できます。 [Cisco Secure Firewall Threat Defense コマンドリファレンス](#) を参照してください。

```
You must accept the EULA to continue.
Press <ENTER> to display the EULA:
Cisco General Terms
[...]
```

Please enter 'YES' or press <ENTER> to AGREE to the EULA:

System initialization in progress. Please stand by.
 You must configure the network to continue.
 Configure at least one of IPv4 or IPv6 unless managing via data interfaces.
 Do you want to configure IPv4? (y/n) [y]:
 Do you want to configure IPv6? (y/n) [y]: **n**

ガイダンス : これらのタイプのアドレスの少なくとも 1 つについて **y** を入力します。管理インターフェイスを使用する予定がない場合でも、プライベートアドレスなどの IP アドレスを設定する必要があります。

Configure IPv4 via DHCP or manually? (dhcp/manual) [manual]:

ガイダンス : [手動 (manual)] を選択します。マネージャアクセスに外部インターフェイスを使用する場合、DHCP はサポートされません。ルーティングの問題を防ぐために、このインターフェイスがマネージャアクセス インターフェイスとは異なるサブネット上にあることを確認してください。

Enter an IPv4 address for the management interface [192.168.45.61]: **10.89.5.17**
 Enter an IPv4 netmask for the management interface [255.255.255.0]: **255.255.255.192**
 Enter the IPv4 default gateway for the management interface [data-interfaces]:

ガイダンス : ゲートウェイを **data-interfaces** に設定します。この設定は、外部インターフェイスを通じてルーティングできるように、バックプレーンを介して管理トラフィックを転送します。

Enter a fully qualified hostname for this system [firepower]: **1010-3**
 Enter a comma-separated list of DNS servers or 'none' [208.67.222.222,208.67.220.220,2620:119:35::35]:
 Enter a comma-separated list of search domains or 'none' []: **cisco.com**
 If your networking information has changed, you will need to reconnect.
 Disabling IPv6 configuration: management0
 Setting DNS servers: 208.67.222.222,208.67.220.220,2620:119:35::35
 Setting DNS domains:cisco.com

ガイダンス : 管理インターフェイスの DNS サーバーを設定します。これらは、両方とも外部インターフェイスからアクセスされるため、後で設定する外部インターフェイスの DNS サーバーと一致する可能性があります。

Setting hostname as 1010-3
 Setting static IPv4: 10.89.5.17 netmask: 255.255.255.192 gateway: data on management0
 Updating routing tables, please wait...
 All configurations applied to the system. Took 3 Seconds.
 Saving a copy of running network configuration to local disk.
 For HTTP Proxy configuration, run 'configure network http-proxy'

Manage the device locally? (yes/no) [yes]: **no**

ガイダンス : Management Center を使用する場合は、**no** と入力します。

Setting hostname as 1010-3
 Setting static IPv4: 10.89.5.17 netmask: 255.255.255.192 gateway: data on management0
 Updating routing tables, please wait...
 All configurations applied to the system. Took 3 Seconds.
 Saving a copy of running network configuration to local disk.
 For HTTP Proxy configuration, run 'configure network http-proxy'

ガイダンス : **routed** と入力します。外部マネージャアクセスは、ルーテッドファイアウォールモードでのみサポートされています。

Configuring firewall mode ...

Device is in OffBox mode - disabling/removing port 443 from iptables.
 Update policy deployment information
 - add device configuration

- add network discovery
- add system policy

You can register the sensor to a Firepower Management Center and use the Firepower Management Center to manage it. Note that registering the sensor to a Firepower Management Center disables on-sensor Firepower Services management capabilities.

When registering the sensor to a Firepower Management Center, a unique alphanumeric registration key is always required. In most cases, to register a sensor to a Firepower Management Center, you must provide the hostname or the IP address along with the registration key.

```
'configure manager add [hostname | ip address ] [registration key ]'
```

However, if the sensor and the Firepower Management Center are separated by a NAT device, you must enter a unique NAT ID, along with the unique registration key.

```
'configure manager add DONTRESOLVE [registration key ] [ NAT ID ]'
```

Later, using the web interface on the Firepower Management Center, you must use the same registration key and, if necessary, the same NAT ID when you add this sensor to the Firepower Management Center.

>

ステップ3 マネージャアクセス用の外部インターフェイスを設定します。

configure network management-data-interface

その後、外部インターフェイスの基本的なネットワーク設定を行うように求めるプロンプトが表示されます。

手動 IP アドレス

```
> configure network management-data-interface
Data interface to use for management: ethernet1/1
Specify a name for the interface [outside]: internet
IP address (manual / dhcp) [dhcp]: manual
IPv4/IPv6 address: 10.10.6.7
Netmask/IPv6 Prefix: 255.255.255.0
Default Gateway: 10.10.6.1
Comma-separated list of DNS servers [none]: 208.67.222.222,208.67.220.220
```

ガイダンス : 登録後に外部 DNS サーバーを保持するには、Management Center で DNS プラットフォーム設定を再設定する必要があります。

```
DDNS server update URL [none]:
Do you wish to clear all the device configuration before applying ? (y/n) [n]:
```

Configuration done with option to allow manager access from any network, if you wish to change the manager access network use the 'client' option in the command 'configure network management-data-interface'.

```
Setting IPv4 network configuration.
Network settings changed.
```

>

DHCP からの IP アドレス

```
> configure network management-data-interface
Data interface to use for management: ethernet1/1
```

```
Specify a name for the interface [outside]:
IP address (manual / dhcp) [dhcp]:
DDNS server update URL [none]:
https://dwinchester:pa$$w0rd17@domains.example.com/nic/update?hostname=<h>&myip=<a>
Do you wish to clear all the device configuration before applying ? (y/n) [n]:

Configuration done with option to allow manager access from any network, if you wish to change the
manager access network
use the 'client' option in the command 'configure network management-data-interface'.

Setting IPv4 network configuration.
Network settings changed.

>
```

ステップ 4 Security Cloud Control が生成した **configure manager add** コマンドを使用して、この Threat Defense を管理する Security Cloud Control を識別します。コマンドの生成については、[手動プロビジョニングによるファイアウォールをオンボード（15 ページ）](#) を参照してください。

例 :

```
> configure manager add account1.app.us.cdo.cisco.com KPOOP0rgWzaHrnj1V5ha2q5Rf8pKFX9E
Lzm1HOynhVUWhXYWz2swmkj2ZWsn3Lb account1.app.us.cdo.cisco.com
Manager successfully configured.
```

ステップ 5 デバイスをリモート支社に送信できるように Threat Defense をシャットダウンします。

システムを適切にシャットダウンすることが重要です。単純に電源プラグを抜いたり、電源スイッチを押したりすると、重大なファイルシステムの損傷を引き起こすことがあります。バックグラウンドでは常に多数のプロセスが実行されており、電源プラグを抜いたり、電源を切断したりすると、システムをグレースフルシャットダウンできないことを覚えておいてください。

- shutdown** コマンドを入力します。
- 電源 LED とステータス LED を観察して、シャーシの電源が切断されていることを確認します（LED が消灯）。
- シャーシの電源が正常に切断されたら、必要に応じて電源プラグを抜き、シャーシから物理的に電源を取り外すことができます。



第 3 章

基本ポリシーの設定

次の設定を使用して基本的なセキュリティポリシーを設定します。

- 内部インターフェイスと外部インターフェイス：内部インターフェイスにスタティック IP アドレスを割り当て、外部インターフェイスに DHCP を使用します。
- DHCP サーバー：クライアントの内部インターフェイスで DHCP サーバーを使用します。
- デフォルトルート：外部インターフェイスを介してデフォルトルートを追加します。
- NAT：外部インターフェイスでインターフェイス PAT を使用します。
- アクセスコントロール：内部から外部へのトラフィックを許可します。

セキュリティポリシーをカスタマイズして、より高度な検査を含めることもできます。

- [インターフェイスの設定 \(29 ページ\)](#)
- [DHCP サーバーの設定 \(35 ページ\)](#)
- [NAT の設定 \(36 ページ\)](#)
- [アクセス制御ルールの設定 \(40 ページ\)](#)
- [外部インターフェイスでの SSH の有効化 \(43 ページ\)](#)
- [設定の展開 \(44 ページ\)](#)

インターフェイスの設定

初期設定に CLI を使用する代わりにゼロタッチプロビジョニングまたは Device Manager を使用する場合、次のインターフェイスが事前設定されます。

- イーサネット 1/1：「外部」、DHCP からの IP アドレス、IPv6 自動設定
- VLAN1：「内部」、192.168.95.1/24
- デフォルトルート：外部インターフェイスで DHCP を介して取得

Management Center に登録する前に Device Manager 内で追加のインターフェイス固有の設定を実行した場合、その設定は保持されます。

初期設定に CLI を使用した場合、デバイスの事前設定はありません。

どちらの場合も、デバイスの登録後に追加のインターフェイス設定を実行する必要があります。CLI による初期設定の場合は、内部スイッチポートの **VLAN1** インターフェイスを追加する必要があります。追加の設定では、必要に応じてスイッチポートをファイアウォールインターフェイスに変換し、インターフェイスをセキュリティゾーンに割り当てて、IP アドレスを変更します。

次の例では、DHCP によるスタティックアドレスとルーテッドモードの外部インターフェイスを使用して (Ethernet1/1)、ルーテッドモードの内部インターフェイス (VLAN1) を設定します。また、内部 Web サーバー用の DMZ インターフェイスも追加します。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)]、[デバイス管理 (Device Management)] の順に選択し、デバイスの [編集 (Edit)] (🔗) をクリックします。 >

ステップ 2 [インターフェイス (Interfaces)] をクリックします。

図 30: インターフェイス

Interface	Logical Name	Type	Security Zones	MAC Address (Active/Standby)	IP Address	Path Monitorin	Port Mode	VLAN Usage	SwitchPo	Virtual Router
Management1/1	management	Physical				Disabled			⏻	Global
Ethernet1/1	outside	Physical	outside		10.89.5.29/255.255.255.192...	Disabled			⏻	Global
Ethernet1/2		Physical				Disabled	Access	1	⏻	
Ethernet1/3		Physical				Disabled	Access	1	⏻	
Ethernet1/4		Physical				Disabled	Access	1	⏻	

ステップ 3 初期設定に CLI を使用した場合は、スイッチポートを有効にします。

a) スwitchポートの [編集 (Edit)] (🔗) をクリックします。

図 31: スイッチポートの有効化

Edit Physical Interface

General Hardware Configuration

Interface ID:
Ethernet1/2

☒ Enabled

Description:

Port Mode:
Access

VLAN ID:
1
(1 - 4096)

Protected:
☐

- b) [有効 (Enabled)] チェックボックスをオンにして、インターフェイスを有効化します。
- c) (任意) VLAN ID を変更します。デフォルトは 1 です。次に、この ID に一致する VLAN インターフェイスを追加します。
- d) [OK] をクリックします。

ステップ 4 「内部」 VLAN インターフェイスを追加 (または編集) します。

- a) [インターフェイスの追加 (Add Interfaces)] > [VLAN インターフェイス (VLAN Interface)] をクリックします。このインターフェイスがすでに存在する場合は、インターフェイスの [編集 (Edit)] () をクリックします。

図 32: VLAN インターフェイスの追加

Add VLAN Interface ⓘ

General IPv4 IPv6 Advanced

Name:

☒ Enabled

Description:

Mode:

Security Zone:

MTU:
(64 - 9198)

Priority: (0 - 65535)

VLAN ID *:
(1 - 4096)

Disable Forwarding on Interface Vlan:

Associated Interface	Port Mo...
No records to display	

- b) [セキュリティゾーン (Security Zone)] ドロップダウンリストから既存の内部セキュリティゾーンを選択するか、[新規 (New)] をクリックして新しいセキュリティゾーンを追加します。

たとえば、**inside_zone** という名前のゾーンを追加します。ゾーンまたはグループに基づいてセキュリティポリシーを適用します。

VLAN1 が事前設定されている場合、これらのフィールドの残りの部分はオプションです。

- c) 48 文字までの [名前 (Name)] を入力します。
たとえば、インターフェイスに **inside** という名前を付けます。
- d) [有効 (Enabled)] チェックボックスをオンにします。
- e) [モード (Mode)] は [なし (None)] に設定したままにします。
- f) [VLAN ID] を **1** に設定します。

デフォルトでは、すべてのスイッチポートは VLAN 1 に設定されます。ここで別の VLAN ID を選択する場合は、新しい VLAN ID の各スイッチポートを編集する必要があります。

インターフェイスを保存した後、VLAN ID を変更することはできません。ここでの VLAN ID は、使用される VLAN タグと設定内のインターフェイス ID の両方です。

g) [IPv4] タブ、[IPv6] タブ、または両方のタブをクリックします。

- [IPv4] : ドロップダウンリストから [スタティック IP を使用する (Use Static IP)] を選択し、IP アドレスとサブネットマスクをスラッシュ表記で入力します。

たとえば、**192.168.1.56/24** と入力します。

図 33: 内部 IP アドレスの設定

Add VLAN Interface

General **IPv4** IPv6 Advanced

IP Type:
Use Static IP

IP Address:
192.168.1.56/24
eg. 192.0.2.1/255.255.255.128 or 192.0.2.1/25

- [IPv6] : ステートレス自動設定の場合は [自動設定 (Autoconfiguration)] チェックボックスをオンにします。

h) [OK] をクリックします。

ステップ 5 外部用に使用する Ethernet1/1 の[編集 (Edit)] (🔗) をクリックします。

[全般 (General)] ページが表示されます。

図 34: 一般

Edit Physical Interface

General IPv4 IPv6 Path Monitoring Harc

Name:
outside

☒ Enabled
☐ Management Only

Description:

Mode:
None

Security Zone:
outside_zone

Interface ID:
Ethernet1/1

MTU:
1500
(64 - 9198)

Priority:
0 (0 - 65535)

Propagate Security Group Tag: ☐

NVE Only: ☐

- a) [セキュリティゾーン (Security Zone)] ドロップダウンリストから既存の外部セキュリティゾーンを選択するか、[新規 (New)] をクリックして新しいセキュリティゾーンを追加します。

たとえば、「outside_zone」という名前のゾーンを追加します。

他の基本設定は変更しないでください。変更すると、Management Center の管理接続が中断されます。

- b) [OK] をクリックします。

ステップ 6 たとえば、Web サーバーをホストするように DMZ インターフェイスを設定します。

- a) DMZ に使用するスイッチポートのスイッチポートモードを、[スイッチポート (SwitchPort)] 列のスライダをクリックして無効にすると、無効 (OFF) と表示されます。
- b) インターフェイスの [編集 (Edit)] (✎) をクリックします。
- c) [セキュリティゾーン (Security Zone)] ドロップダウンリストから既存の DMZ セキュリティゾーンを選択するか、[新規 (New)] をクリックして新しいセキュリティゾーンを追加します。

たとえば、**dmz_zone** という名前のゾーンを追加します。

- d) 48 文字までの [名前 (Name)] を入力します。

たとえば、インターフェイスに **dmz** という名前を付けます。

- e) [有効 (Enabled)] チェックボックスをオンにします。
- f) [モード (Mode)] は [なし (None)] に設定したままにします。
- g) 必要に応じて、[IPv4] タブと [IPv6] タブのいずれかまたは両方をクリックし、IP アドレスを設定します。
- h) [OK] をクリックします。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

DHCP サーバーの設定

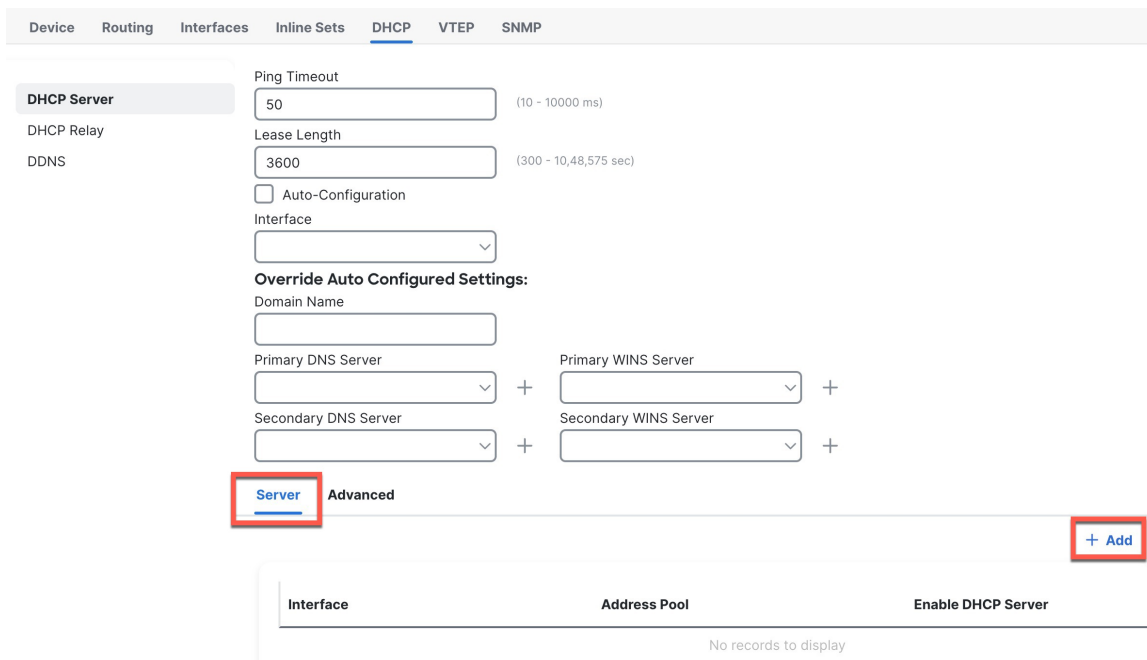
クライアントで DHCP を使用してファイアウォールから IP アドレスを取得するようにする場合は、DHCP サーバーを有効にします。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)]、[デバイス管理 (Device Management)] の順に選択し、デバイスの [編集 (Edit)] () をクリックします。 >

ステップ 2 [DHCP] > [DHCPサーバー (DHCP Server)] を選択します。

図 35: DHCP サーバー



The screenshot displays the DHCP Server configuration interface. The top navigation bar includes tabs for Device, Routing, Interfaces, Inline Sets, DHCP (selected), VTEP, and SNMP. On the left, a sidebar lists DHCP Server, DHCP Relay, and DDNS. The main configuration area includes fields for Ping Timeout (50 ms), Lease Length (3600 sec), and an unchecked Auto-Configuration checkbox. Below these are fields for Interface, Domain Name, Primary and Secondary DNS Servers, and Primary and Secondary WINS Servers. At the bottom, there are tabs for Server (selected) and Advanced, and a red box highlights the '+ Add' button. A table at the bottom shows columns for Interface, Address Pool, and Enable DHCP Server, with a message 'No records to display'.

ステップ 3 [サーバー (Server)] エリアで、[追加 (Add)] をクリックし、以下のオプションを設定します。

図 36: サーバーの追加

Add Server ⓘ

Interface*
inside ▼

Address Pool*
192.168.1.2-192.168.1.55
(2.2.2.10-2.2.2.20)

☒ Enable DHCP Server

Cancel OK

- [インターフェイス (Interface)] : ドロップダウンリストからインターフェイス名を選択します。
- [アドレスプール (Address Pool)] : IP アドレスの範囲を設定します。IP アドレスは、選択したインターフェイスと同じサブネット上に存在する必要があり、インターフェイス自身の IP アドレスを含めることはできません。
- [DHCPサーバーを有効にする (Enable DHCP Server)] : 選択したインターフェイスの DHCP サーバーを有効にします。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

NAT の設定

この手順では、内部クライアントが内部アドレスを外部インターフェイスの IP アドレスのポートに変換する NAT ルールを作成します。このタイプの NAT ルールのことをインターフェイスポート アドレス変換 (PAT) と呼びます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [NAT] の順に選択し、[新しいポリシー (New Policy)] をクリックします。

ステップ 2 ポリシーに名前を付け、ポリシーを使用するデバイスを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。

図 37: 新しいポリシー

New Policy

Name:
FTD_policy

Description:

Targeted Devices
Select devices to which you want to apply this policy.

Available Devices and Templates

- 192.168.0.124
- 192.168.0.155

Selected Devices and Templates

- 192.168.0.124
- 192.168.0.155

[Add to Policy](#)

[Cancel](#) [Save](#)

ポリシーが Management Center に追加されます。引き続き、ポリシーにルールを追加する必要があります。

図 38: NAT ポリシー

FTD_Policy [Show Warnings](#) [Save](#) [Cancel](#)

Enter Description

[Rules](#) [NAT Exemptions](#) [Policy Assignments \(1\)](#)

[Filter by Device](#) [Add Rule](#)

	#	Direction	Type	Source Interface Objects	Destination Interface Objects	Original Packet			Translated Packet			Options
						Original Sources	Original Destinations	Original Services	Translated Sources	Translated Destinations	Translated Services	
☐ NAT Rules Before												
☐ Auto NAT Rules												
☐ NAT Rules After												

ステップ 3 [ルールの追加 (Add Rule)] をクリックします。

ステップ 4 基本ルールのおプションを設定します。

図 39: 基本ルールのおプション

Add NAT Rule

NAT Rule:
Auto NAT Rule

Type:
Dynamic

☒ Enable

Interface Objects **Translation**

- [NATルール (NAT Rule)] : [自動NATルール (Auto NAT Rule)] を選択します。
- [タイプ (Type)] : [ダイナミック (Dynamic)] を選択します。

ステップ 5 [インターフェイスオブジェクト (Interface objects)] ページで、[使用可能なインターフェイスオブジェクト (Available Interface Objects)] 領域から [宛先インターフェイスオブジェクト (Destination Interface Objects)] 領域に外部ゾーンを追加します。

図 40: インターフェイスオブジェクト

Interface Objects Translation PAT Pool Advanced

Available Interface Objects

Search by name

inside

1 outside

Add to Source

2 Add to Destination

Source Interface Objects (0)

any

3 Destination Interface Objects (1)

outside

ステップ 6 [変換 (Translation)] ページで、次のオプションを設定します。

図 41: 変換

Interface Objects	Translation	PAT Pool	Advanced
Original Packet		Translated Packet	
Original Source:* all-ipv4 +		Translated Source: Destination Interface IP	
Original Port: TCP			
		Translated Port: 	

- [元の送信元 (Original Source)] : [追加 (Add)] (+) をクリックして、すべての IPv4 トラフィック (0.0.0.0/0) のネットワークオブジェクトを追加します。

図 42: 新しいネットワークオブジェクト

New Network Object

Name

Description

Network

☐ Host
 ☐ Range
 ☒ Network
 ☐ FQDN

☐ Allow Overrides

Cancel

Save

(注)

自動 NAT ルールはオブジェクト定義の一部として NAT を追加するため、システム定義の **any-ipv4** オブジェクトを使用することはできません。また、システム定義のオブジェクトを編集することはできません。

- [変換済みの送信元 (Translated Source)] : [宛先インターフェイス IP (Destination Interface IP)] を選択します。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックしてルールを追加します。

ルールが [ルール (Rules)] テーブルに保存されます。

ステップ 8 NAT ページで [保存 (Save)] をクリックして変更を保存します。

アクセス制御ルールの設定

デバイスを登録したときに、基本の [すべてのトラフィックをブロック (Block all traffic)] アクセス コントロール ポリシーを作成した場合は、デバイスを通するトラフィックを許可するためにポリシーにルールを追加する必要があります。アクセス コントロール ポリシーには、順番に評価される複数のルールを含めることができます。

次の手順では、内部ゾーンから外部ゾーンへのすべてのトラフィックを許可するアクセス制御ルールを作成します。

手順

ステップ 1 [ポリシー (Policy)] > [アクセスポリシー (Access Policy)] > [アクセスポリシー (Access Policy)] の順に選択し、デバイスに割り当てられているアクセス コントロール ポリシーの [編集 (Edit)] (🔗) をクリックします。

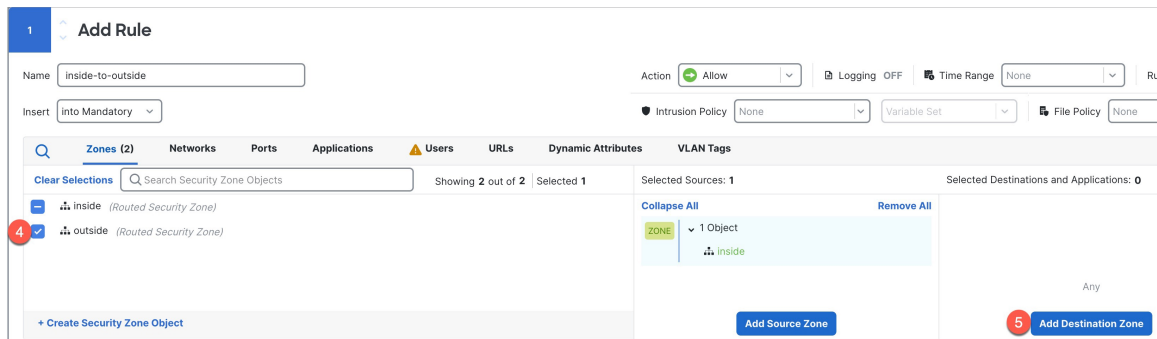
ステップ 2 [ルールを追加 (Add Rule)] をクリックし、次のパラメータを設定します。

図 43: 送信元ゾーン (Source Zone)

The screenshot shows the 'Add Rule' configuration interface. At the top, there's a 'Name' field with 'inside-to-outside' entered. To the right, 'Action' is set to 'Allow' and 'Intrusion Policy' is set to 'None'. Below this, there's a section for 'Zones (1)' with a search bar and a list of zones: 'inside (Routed Security Zone)' (checked) and 'outside (Routed Security Zone)' (unchecked). At the bottom right, there's a blue button labeled 'Add Source Zone' with a red circle and the number 3 next to it.

1. このルールに名前を付けます（たとえば、**inside-to-outside**）。
2. [ゾーン (Zones)] から内部ゾーンを選択します。
3. [送信元ゾーンの追加 (Add Source Zone)] をクリックします。

図 44:宛先ゾーン (Destination Zone)



4. [ゾーン (Zones)] から外部ゾーンを選択します。

5. [宛先ゾーンを追加 (Add Destination Zone)] をクリックします。

他の設定はそのままにしておきます。

ステップ 3 (任意) パケットフロー図でポリシータイプをクリックして、関連付けられたポリシーをカスタマイズします。

[プレフィルタ (Prefilter)]、[復号 (Decryption)]、[セキュリティインテリジェンス (Security Intelligence)]、および[アイデンティティ (Identity)] ポリシーは、アクセス制御ルールの前に適用されます。これらのポリシーをカスタマイズする必要はありませんが、ネットワークのニーズを把握した後、信頼できるトラフィックに **fastpath** を適用 (処理をバイパス) したりトラフィックをブロックしてその後の処理が不要になるようにすることで、ネットワークのパフォーマンスを向上させることができます。

図 45: アクセス制御の前に適用されるポリシー



- [プレフィルタルール (Prefilter Rules)] : デフォルトのプレフィルタポリシーは、他のルールが適用される (分析する) すべてのトラフィックを通過させます。デフォルトポリシーに加えることができる唯一の変更は、トンネルトラフィックを「ブロックする」ことです。それ以外では、新しいプレフィルタポリシーを作成して、分析 (通過)、**fastpath** 処理 (以降のチェックをバイパス)、またはブロックできるアクセス コントロール ポリシーに関連付けることができます。

プレフィルタを使用すると、ブロックまたは **fastpath** 処理のいずれかによって、トラフィックがさらに進む前に処理することで、パフォーマンスを向上させることができます。新しいポリシーでは、「トンネル」ルールと「プレフィルタ」ルールを追加できます。トンネルルールを使用すると、プレーンテキスト (非暗号化) のパススルートンネルを **fastpath** 処理、ブロック、または再ゾーン化できます。プレフィルタルールを使用すると、IP アドレス、ポート、およびプロトコルで識別される非トンネルトラフィックを **fastpath** 処理またはブロックできます。

たとえば、ネットワーク上のすべての FTP トラフィックをブロックし、管理者からの SSH トラフィックを高速パスする場合は、新しいプレフィルタ ポリシーを追加できます。

- [復号 (Decryption)] : デフォルトでは、復号は適用されません。復号は、ネットワークトラフィックをディープインスペクションに公開する方法です。ほとんどの場合、トラフィックを復号する必要はなく、法的に許可されている場合にのみ復号できます。ネットワークを最大限に保護するために、重

要なサーバーへのトラフィックや、信頼できないネットワークセグメントからのトラフィックには、復号ポリシーを使用することをお勧めします。

- [セキュリティ インテリジェンス (Security Intelligence)] : (IPS ライセンスが必要) セキュリティ インテリジェンスはデフォルトで有効になっています。セキュリティ インテリジェンスは、悪意のあるアクティビティに対するもう 1 つの早期防御で、さらなる処理のために接続をアクセス コントロール ポリシーに渡す前に適用されます。セキュリティ インテリジェンスは、レピュテーション インテリジェンスを使用して、シスコの脅威インテリジェンス組織である Talos が提供する IP アドレス、URL、およびドメイン名との接続を迅速にブロックします。必要に応じて、IP アドレス、URL、ドメインを追加または削除できます。

(注)

IPS ライセンスがない場合、このポリシーは、アクセス コントロール ポリシーで有効と表示されていても展開されません。

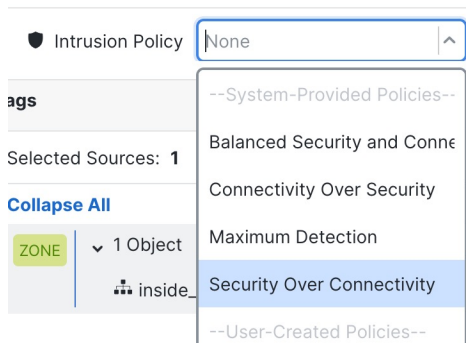
- [アイデンティティ (Identity)] : アイデンティティはデフォルトでは適用されません。アクセス コントロール ポリシーによるトラフィックの処理を許可する前に、ユーザーに認証を要求できます。

ステップ 4 (任意) アクセス制御ルールの後に適用される侵入ポリシーを追加します。

侵入ポリシーは、トラフィックのセキュリティ違反を検査する定義済みの一連の侵入検出および侵入防止設定です。Management Center には、多数のシステム提供のポリシーが含まれており、そのまま有効にすることもカスタマイズすることもできます。この手順では、システム提供のポリシーを有効にします。

- [侵入ポリシー (Intrusion Policy)] ドロップダウンリストをクリックします。

図 46: システム提供の侵入ポリシー

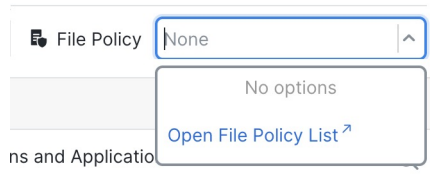


- リストからシステム提供のポリシーを 1 つ選択します。

ステップ 5 (任意) アクセス制御ルールの後に適用されるファイルポリシーを追加します。

- [ファイルポリシー (File Policy)] ドロップダウンリストをクリックし、既存のポリシーを選択するか、[ファイルポリシーリストを開く (Open File Policy List)] を選択してポリシーを追加します。

図 47: ファイルポリシー (File Policy)



新しいポリシーの場合は、[ポリシー (Policies)] > [マルウェア&ファイル (Malware & File)] ページが別のタブで開きます。

- b) ポリシーの作成の詳細については、[Cisco Secure Firewall Device Manager Configuration Guide](#)を参照してください。
- c) [ルールを追加 (Add Rule)] ページに戻り、ドロップダウンリストから新しく作成したポリシーを選択します。

ステップ 6 [Apply] をクリックします。

ルールが [ルール (Rules)] テーブルに追加されます。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

外部インターフェイスでの SSH の有効化

ここでは、外部インターフェイスへの SSH 接続を有効にする方法について説明します。

デフォルトでは、初期設定時にパスワードを設定した **admin** ユーザーを使用できます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [プラットフォーム設定 (Platform Settings)] を選択し、Threat Defense ポリシーを作成または編集します。

ステップ 2 [SSHアクセス (SSH Access)] を選択します。

ステップ 3 SSH 接続を許可する外部インターフェイスと IP アドレスを指定します。

- a) [追加 (Add)] をクリックして新しいルールを追加するか、[編集 (Edit)] をクリックして既存のルールを編集します。
- b) ルールのプロパティを設定します。
 - [IP Address] : SSH 接続を許可するホストまたはネットワークを特定するネットワークオブジェクトまたはグループ。オブジェクトをドロップダウンメニューから選択するか、または[+]をクリックして新しいネットワークオブジェクトを追加します。
 - [使用可能なゾーン/インターフェイス (Available Zones/Interfaces)] : [選択したゾーン/インターフェイス (Selected Zones/Interfaces)] リストの下のフィールドに外部ゾーンを追加するか「外部」インターフェイス名を入力し、[追加 (Add)] をクリックします。

図 48: 外部インターフェイスでの SSH の有効化

c) [OK] をクリックします。

ステップ 4 [Save (保存)] をクリックします。

これで、[展開 (Deploy)] > [展開 (Deployment)] をクリックし、割り当てたデバイスにポリシーを展開できるようになりました。変更はポリシーを展開するまで有効になりません。

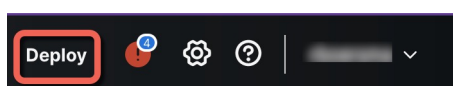
設定の展開

設定の変更をデバイスに展開します。変更を展開するまでは、デバイス上でどの変更もアクティブになりません。

手順

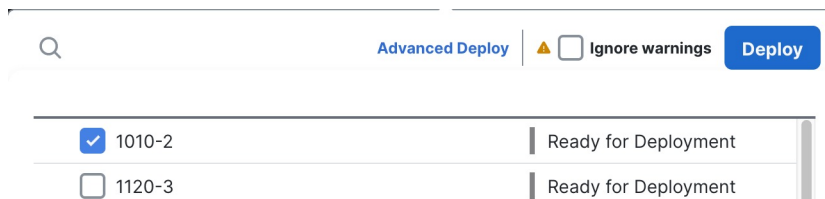
ステップ 1 右上の [展開 (Deploy)] をクリックします。

図 49: 展開



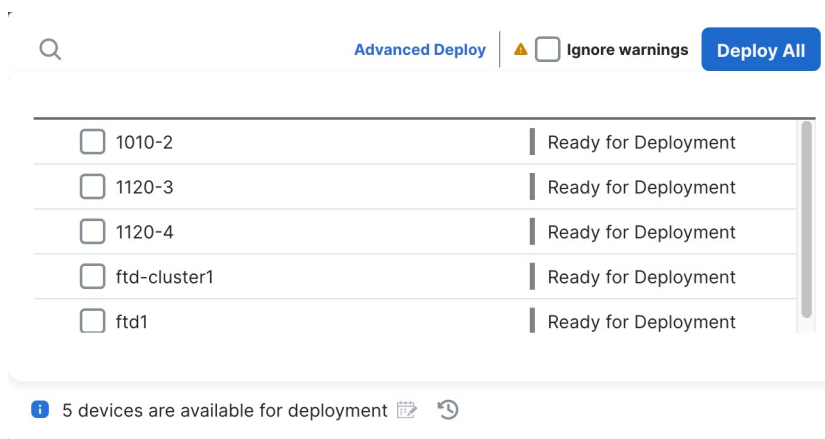
ステップ2 迅速な展開の場合は、特定のデバイスのチェックボックスをオンにして [展開 (Deploy)] をクリックします。

図 50: 選択したものを展開



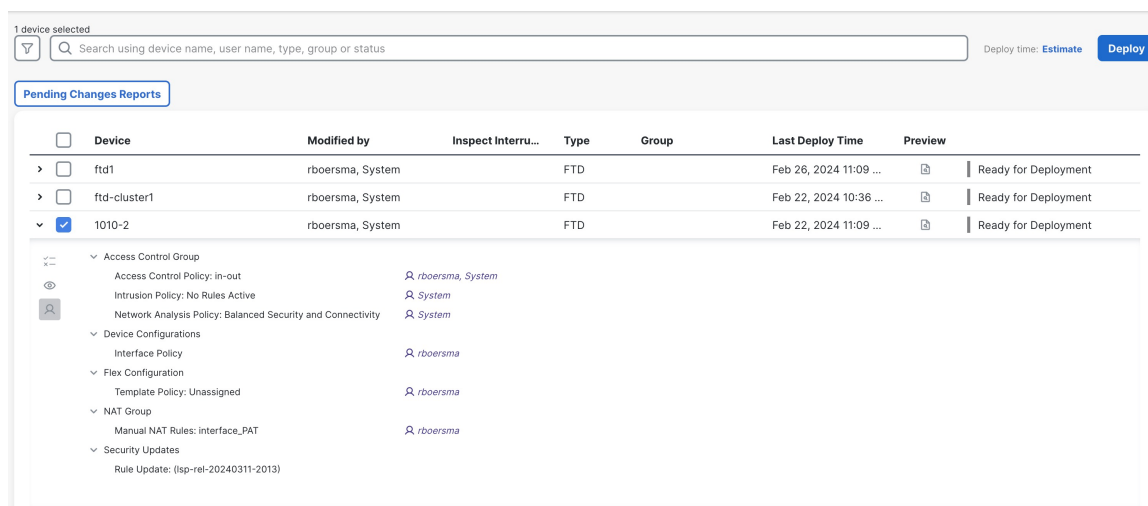
または、[すべて展開 (Deploy All)] をクリックしてすべてのデバイスに展開します。

図 51: すべて展開



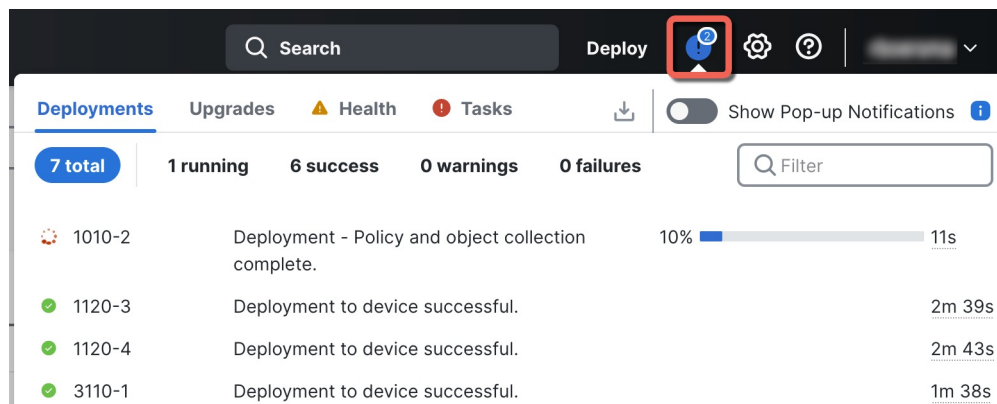
それ以外の場合は、追加の展開オプションを設定するために、[高度な展開 (Advanced Deploy)] をクリックします。

図 52: 高度な展開



ステップ 3 展開が成功したことを確認します。展開のステータスを表示するには、メニューバーの [展開 (Deploy)] ボタンの右側にあるアイコンをクリックします。

図 53: 展開ステータス



翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。